

日本で初めてのまち歩き博覧会「長崎さるく博06」(以降「長崎さるく博」)が、昨年四月一日から一〇月二九日まで約二〇〇日に渡って長崎市内で行われた。本誌では、それに先立ち、昨春に発行した七六号で、同博覧会のコーディネータープロフィールである茶谷幸治氏に、その内容についてご紹介いただいた。

開催期を中心に各方面で話題を呼んだ「長崎さるく博」は、結果として、予想を上回る、のべ一〇〇七万九千人(推計)にものぼる参加者を数え、大成功に終わった。そこで今回は、その「長崎さるく博」の結果と今後の展開について、市民プロフィールの一人として、また市民によるさるくガイドとしても参加された川良真理さんと事務局にお話をうかがった。

## まちを歩くことは まちを磨くこと

「長崎さるく博06」が残したものの

川良 真理 *Interview with Mari Kawara*

大成功に終わった  
「長崎さるく博」

私は昨年、「長崎さるく博」に関して市民プロフィールという立場で実現に協力し、また自ら観光コースも提案しました。そして期間中はさるくガイドに登録し、期間中の土日のほとんどはガイド役を務めました。

「長崎さるく博」は、「博」という名前が付いていますが、万博のように特別に展示場を設けられる博覧会とは違い、町全体を展示場に見たてて、歩いてあちらこちらを見て回る、長崎市全体を会場とするまち歩き博覧会でした。通常の博覧会ならば大掛かりな施設を建設する必要がありますが、「まち歩き」なので、本来の地域性を一〇〇％利用していることから、「入場料もそれほどかかりません。ただ、実現に至るまでは、二年前から「さるく博」として二回先行演習をするなど、準備には時間をかけました。

この「さるく博」は、まち歩きスケール(人数、時間、休憩など)などを実験的に試すために行ったのですが、結果的に、「さるく博」とはどのようなものであるかを市民の皆さんが理解する機会にもなりました。こうしたキツチリした事前準備をしたことが、事故もなく大成功に終わった要因だと思います。

本番の「さるく博」では、テーマに「知らなから長崎の体験と発見」を掲げ、「さるく」に面白いも

がある。「」に美味しい店がある」などな  
ど、「コース選定に当たっては、さまざま意見  
集めたので、その内容は、長崎を紹介する基本  
的なものから、地元民ですら知らない「マツク  
なものまで、本当に多種多様なものとなりまし  
た。そしてそれらを基に、「コース別に地図」「さ  
るく」コースマップ」を作成し、ガイドスリーションや  
総合観光案内所で無料配布しました。ちなみ  
にマップの作成は、地元でタウン情報誌の編集を  
している私も手伝いましたし、市民プロシ  
ーサーも二〇人ほどが関わりました。またマップ  
は無料でしたが、それらを一冊にまとめた「マ  
ップブック」は三〇〇円と有料販売したのにも関  
わらず、予想の三倍以上も売れたそうです。

### 三つの「さるく」を実施

「さるく博」では、大きく「長  
崎遊さるく」「長崎通さるく」  
「長崎学さるく」と三つの「さ  
るく」を二本柱にし、それぞ  
れのテーマごとに内容を設定しま  
した。

三つの「さるく」の中身の違  
いは次のようになります。

第一の「長崎遊さるく」は自  
由気ままに長崎散策するもので  
全四コースを設定。マップを手



多くの人が参加した「通さるく」

に、あちらこちら立ち止まりながらゆっくり歩  
いて見て回ります。どのコースも、約一時間半  
二時間ですむように考えました。それぞれの「  
コースでそれぞれに特色のあるまち歩きが楽しめ  
ましたので、いろいろなコースを組み合わせるこ  
とで、長崎の違った顔を見ることができ、「さ  
るく」になったと思います。

次の「長崎通さるく」は、私も登録してい  
たさるくガイド付きの全三コースで、参加料と  
して五〇〇円を設定。原則予約制でしたが、ツ  
アーの人数が少ない時は、飛び入りの現地参加  
もできました。その名のとおり、まさに「通」だ  
けが知っている長崎名物のガイドツアーで、「普  
通の」商店街を見て歩いたのですが、案内する  
のがそのまちを知り尽くした名人ガイドなの  
で、例えば、「この中華料理店の店主は小学校  
時代の同級生で、は絶品ですから、是非、  
帰りに食べてみてください」といった案内をし  
て、見慣れた風景も観光資源へと変えました。

「通さるく」は基本的にどの  
コースも人数は二五名までで、  
所要時間は二時間程度で回  
れるようにしたのですが、「こ  
れは、それまでに「プ」さるく  
博」をした経験からガイドの  
声が届く人数は一五名、そし  
て坂が多い長崎で歩くのは、  
長くて二時間が限界だと分  
かったので決めました。

最後の「長崎学さるく」は  
予約制で、参加者体験型の九



市長も参加した「通さるく」  
(前列右端がガイド中の川良さん)

テーマを設置。「長崎がもっと見えてくる」と  
掲げ、専門家による講座や体験をセットにした  
学んで食べてお腹も好奇心も大満足の参加型  
講座や、とっておきの道を歩く本格的なウォー  
キング、めったに聴けない先生による「テーマ掘  
り下げタイプ」のワークショップなど、さまざまハ  
リーションを用意しました。このコースだけ参  
加料は講座により異なっていて、千円以上いた  
だいたのですが、これも人気がありました。

案内する側もされる側も  
町を好きになる

先ほども言いましたように、ガイド役を務め  
たのは市民によるボランティアだったのですが、  
ガイド役に応募した方は多かったです。普段は

## 引き継がれる「長崎さるく博」の精神

長崎市ではこの4月から、通年で行う「長崎さるく」をスタートさせる。これに関して長崎さるく博'06推進委員会事務局の麻田三千雄さんは、「長崎さるく博では、当初の参加者を960万人と予想していたのですが、蓋を開けてみると、それを遙かに上回る方が参加してくださり、時には、歩くのも困難なほどのお客さまが訪れたこともありました。そしてまた、この企画を『継続して欲しい』という声も多かったことから、いつでもまち歩きが楽しめる『長崎さるく』が始まることになったわけです。これが定着し、長崎が『歩いて回ると楽しい町だ』というイメージがさらに広まってくれば、今後、グラバー園と平和公園だけではない、新しい長崎の魅力づくりにも、きっと役だってくれると思います」と語る。つまり博覧会の精神は、「長崎さるく」として継続されるわけである。ちなみに、コースは、「長崎遊さるく」をもとに42から45コースへと、さらに数を増やす。



人々は「まち歩き」を楽しんだ

日本の各都市で、自分の町の魅力の再発見が模索されている現在において、「歩く」という観光の原点に立ち戻った「長崎さるく博」。これからの観光のあり方に一石を投じたイベントだったと言える。(長崎さるく博'06推進委員会事務局インタビュー)

サフリーマンをしていて土日のみ参加される方や、親娘でガイドする方など、バラエティに富んだガイドが揃い、中にはとても人気があったガイドさんもいて、最後の方になると、人気を競い合ったりもしていました笑)。

長崎市では、市内で毎年このように行われていた定例イベントを「さるく博」の一環のようない形でつたり、期間中は、市内の各所で「さるく博」の職を立てたりするなどして盛り上げました。

実際に運営に関わった立場で言わせていただくと、成功した要因としては、参加に関するわずらわしい手続きがなかったのが自由度高かったこと。また、コースがたくさんあり、それぞれが全く違うものだったので、何度も足を運ぼうという気になったこと。そして、地域住民がガイドを務めたことに代表されるように、地元も積極的に参画したこと。そして何よりも、参加された方が長崎のことを知り、長崎を好きになってくれたことが大きかったと思います。

しかしそれは、市民ガイドとして参加した私たちも同じでした。最初はマニュアルを頼りに案内しようとするガイドの方たちも、回を重ねることに、ツアーに参加された人たちの感想を聞いたりして、他のガイドに負けないようにと自分で勉強して、いかにいいガイドをするか熱心に工夫するようになりました。このように、案内する側も案内される側も、長崎という町の魅力を再確認することで、まさに「楽しく歩くまち長崎」というま

ちブランド」が確立できたのだと思います。お客様をもてなす私たちが楽しんでいましたから、訪れる皆さんにも楽しんでいただけ、中には毎週、関西から夜行バスでやってきたり、緻密な計画を立てて全コースを回られた方がいたり、自然に盛り上がり上がっていき、成功に結びついたのでしよう。

今回のイベントを通じて、私は「まちを歩くことは、まちを磨くことだ」と感じました。なぜなら、例えば、それまでは汚くても何もしていなかった家が、人が頻繁に通ることによって、「きれいにしておかなくては」と思うようになり、花を飾るようになったり、壊れた塀を直したりするところが、いっぱいあったからです。やはり町は歩いて見るもの、人が訪れることで変わっていくものだ、とつくづく思いました。イベントは終わりましたが、「長崎さるく」と形を変えて、今後もまち歩きは続けられますから、長崎が、さらにもっといい町へ生まれ変わるのではないかと期待しています。

(この記事はCEL編集部が川良氏と長崎さるく博推進委員会事務局にインタビューを行い原稿としたものです)

◎川良 眞理(かわら・まり)

タウン情報誌「ザながさき」主幹、長崎さるく博市民プロデューサー。